

2019年度 若手・女性研究者奨励金 レポート

研究課題	ネパール農民の性別役割分業とジェンダー規範の認識に関する研究
キーワード	①ジェンダー規範、②性別役割分業、③ネパール農村

研究者の所属・氏名等

フリガナ 氏名	カイダ キヨミ 甲斐田 きよみ	所属等	文京学院大学 外国語学部 准教授
プロフィール	名古屋大学大学院国際開発研究科で博士号（国際開発学）を取得し、2016年より文京学院大学外国語学部で国際協力関連の科目を担当。これまで、JICA（国際協力機構）派遣専門家としてナイジェリア等アフリカにおいてジェンダーと開発分野の国際協力プロジェクトに従事。		

1. 研究の概要

本研究は、世帯内での女性の意思決定力はどのように向上するか、どのような要因が意思決定力を向上させるか、そのために外部からの支援はどうあるべきかを明らかにする研究に繋げるために、世帯内での性別役割分業の実態、社会経済状況の変化に伴い性別役割分業にも変化が見られるか、ジェンダー規範をどのように認識しているかという基礎的なデータを収集するものである。

対象地域は、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントの目標に対して、数多くの課題が残るネパールの農村である。ネパールの首都カトマンズ近郊のパンチカール地域で活動するNGOのLOVE GREEN NEPAL/JAPANの協力を得て、2019年9月にフィールドワークを実施した。パンチカール地域に居住するダヌワール人（この地域の先住民族で貧困層が多い）の農家を訪問し10組の夫妻20人に対して個別インタビューを行った。家族観、世帯内での役割、経済活動などについて得られた質的データを分析した。NGO LOVE GREEN NEPAL/JAPANのスタッフ6人に対して調査結果を発表した。

2. 研究の動機、目的

ナイジェリア等アフリカにおいて、女性を対象とする収入創出活動にJICA（国際協力機構）の派遣専門家等として約12年間従事してきた。開発協力の現場に携わる中で、「女性が収入を得ることが、女性の世帯内外での地位の向上に繋がるのか、女性が望む状況を得られるのか」という疑問を抱いた。

ネパールは家父長制が強く、若年結婚、ダウリ（婚姻に際し、花嫁の家から花婿の家に送られる持参金）、婚家での妻の地位の低さ等、ジェンダー課題が特に農村地域では多く残っている。近年、男性を中心に都市部や海外へ移民労働の機会が増していたり、周辺の町へ収穫物を販売する機会ができていたりという変化が、農家の男性・女性の性別役割分業とジェンダー認識にどのような影響を与えているか、あるいは与えていないか、また教育費をはじめ現金を必要とする生活に変化していることは性別役割分業に影響するのか、農家の男性・女性の語りから、農家の男性・女性のジェンダー認識を明らかにする研究に今後繋がるよう、基礎的な情報の収集を目的とした。

3. 研究の結果

(1) 調査地の概要・調査方法

首都カトマンズから車で2時間ほどのパンチカール市ドトゥラ村に居住するダヌワール人の10組の夫妻20人を対象とした。個別インタビューをネパール語・英語の通訳を介して行った。ドトゥラ村の主な生業は農業で、稲やトウモロコシ、野菜の栽培や乳牛の飼育を行っている。パンチカール地域一帯がジャガイモの産地となっている。ダヌワール人は先住少数民族で、他の民族に比べて差別されることもあり、貧困層が多い。パンチカール地域は2015年に発生した地震の被害が大きく、多くの家屋が倒壊した。現在、伝統的な家屋からコンクリート製の家屋に再建が進められている。



写真1 調査対象の夫妻
斜面に畑が広がる



写真2 農家を訪問する筆者

(2) 性別役割分業

男性も女性も耕種農業と家畜飼育に携わる。畑の耕起は男性のみが携わる。家畜の世話は女性が従事し、特に家畜の餌となる飼い葉を集めて自宅に運ぶ作業は1日に数回行われ、飼い葉が重い事、斜面を上り下りすることから大きな労働負担となっている。乳牛の世話は男性も行う。農作物の販売は、村にある仲買人に販売する場に持っていき重さを測って行われたり、自分の畑まで仲買人を呼んだりする。乳牛は毎日搾った乳を村の集荷所に持っていき成分や量を記録した後日お金を受け取る。これらの販売作業は男性が行う。

料理、洗濯、掃除などの家事は全て女性が行う。女性は結婚後、夫の両親と同じ敷地内あるいは隣接して居住しているため、家事は義母や義姉妹と分担する。義母が高齢であれば家事を義母が担い、農作業や力の必要な作業を女性（嫁）が行う。男性の中にはカトマンズや海外に移民労働に出る事例もある。家計管理は世帯で収入を1つにし、女性が行う。義母が同居していれば義母が管理する。収入が足りない場合に女性（嫁）がメンバーになっているマイクロファイナンス機関から借りることが多い。女性のマイクロファイナンス機関は近隣にあること、申請方法が簡易で借りやすいことが理由に挙げられた。地震のために倒壊した家屋の再建は政府からの補助金では足りず、ほとんどの世帯が借金をしていた。

表1は調査対象者夫妻の1日の活動である。女性は様々な活動を行っており、休憩時間が少ないことが分かる。

表1 ある調査対象者夫妻の1日の活動

男性の1日の活動	女性の1日の活動
5:00 起床、身支度、お茶を飲む	4:30 起床、身支度、掃除、宗教儀式、お茶の準備、家畜の世話
6:00 乳牛の乳しぼり。集荷所へ運ぶ	7:30-10:30 畑仕事、飼い葉集め
7:00-11:00 畑仕事	10:30-14:00 昼食の準備、昼食、休憩
11:00-14:00 自宅で休憩・ご飯	14:00-17:00 畑仕事、飼い葉集め
14:00-18:00 畑仕事	17:00 夕食の準備、家畜の世話
18:00 夕食、休憩	18:00 夕食、休憩
20:00 就寝	20:00 片付け
	21:00 就寝



写真3 家畜の世話は女性の役割
調査対象者（左）と義母



写真4 家畜の餌となる飼料葉集めは女性の役割。50キロ近い飼料葉を斜面の下から運ぶ

（3）ジェンダー認識

現在の性別役割分業への不満が感じられる回答はなく、男性の役割・女性の役割は伝統的なものとして男女双方から容認されている。重い飼料葉を背負う女性の前を夫が手ぶらで歩いている姿をよく見かけたが、「女性の仕事だから」という回答で、飼料葉集めが大変な作業と認識しながらも女性の役割として受容していた。ダヌワール人の中では結婚時にダウリの慣習がなく、調査対象者10組の夫妻の中でも誰もダウリを実施していなかった。また自分たちの子どもの結婚時にもダウリを実施しなかった、あるいは予定していないという回答があった。結婚は親戚や近所の人から薦められることもあるが、本人同士が学校で知り合うなど自由恋愛によることもある。男性の親が女性の親に結婚の申し込みを行う。しかし親が反対した場合には二人で一定期間逃亡し、親の了承を得て家に戻り結婚する。男性が酔った時やケンカになったときに妻を殴る例があるが、DVは良くないと男女ともに認識していた。また結婚せずに独身でいることは構わないと認識する一方で、離婚は良くないと認識されていた。



写真5 調査対象者夫妻と息子夫妻・孫



写真6 調査対象者夫妻と夫の母親

（4）考察

調査対象地では伝統的な性別役割分業が実践されていた。家の再建費用や教育費など現金が以前より必要になり、農業による収入では足りない。世帯員が移民労働に出ることにより農業の人手が不足していく。このような変化の中で、従来は女性（嫁）が農作業も家事も担っていたが、義母が家事を分担するようになっていた。男性との間の性別役割分業の変化はまだ見られなかったが、今後は変化する可能性もあり、性別役割分業の変化に伴いジェンダー認識の変化も生じる可能性があると考えられる。

4. 研究者としてのこれからの展望

今後、社会経済状況の変化に伴うジェンダーによる力関係の変化について研究を続けていく。そして研究成果を、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントに関する、実際の国際

協力プロジェクトに活かす方法を探っていきたい。

また、ネパールでの研究に関しては、研究を教育に活かしていきたい。本研究のフィールドワークを受け入れてくれたNGOの LOVE GREEN NEPAL/JAPAN には、毎年、私のゼミナールの学生のフィールドワークも受け入れ、パンチカール地域の農村での個別インタビューの実践やホームステイを通してネパールの一般家庭の生活を学ぶ場をいただいている。

近年、在留外国人は急増しているが、特にネパール人が増加している。将来は、東京で在留ネパール人と学生の交流の場を作り、学生が在留外国人の抱える問題に接し、途上国からの移民労働の問題、多文化共生社会に向けて出来ることを行えるような場を学生に提供したい。

5. 社会に対するメッセージ

本奨励金によりネパールでの調査を実施することができ、ネパール農村を訪問し農家世帯の暮らしに触れ、ネパール農村におけるジェンダー研究をスタートさせることができました。また、本調査で得た知見をゼミナールの学生へのフィールドワークのプログラムに活かすことができました。今後も、ネパール農村のジェンダー研究と学生のフィールドワーク、さらに在留ネパール人と学生の交流の場を繋げていきたいと思えます。

本研究を遂行するにあたり、ご支援いただいた皆様に、深く感謝の意を表します。